SY8-4

災害時の乳幼児と保護者のニーズと保育教育専門職に期待される役割
ーコミュニティ・エンパワメントの視点からー

安梅 勅江

筑波大学医学医療系

【目的】

深刻な災害が多発する中で、災害に対応した母子保健サービスの質向上が課題である。当事者のニーズに合わせ、多種多様なパンフレット作成、普及を通じた取り組みなど遂行する一方、当事者の視点からの母子保健サービス研究は十分ではないのが現状である。本研究は、質的研究により、当事者の「なまの声」から、災害に対応した母子保健サービス向上に向けニーズとレジリエンス強化に関連する要因を明らかにすることを目的とした。さらに、明らかになった要因を組み込み、災害時の対応および平時からの備えについて、専門職および一般向けのわかりやすいマニュアルを作成した。

【方法】

専門職および乳幼児の保護者の抱える災害時のニーズとレジリエンス強化の要因に関するフォーカス・グループインタビューを実施した。その結果に基づきマニュアルを整理した。

【結果・考察】

1. 必要な情報収集と情報発信

専門職が必要な情報は、施設の人的物的損傷と避難の必要性、保護者の現在地と状況、いつ頃だれが子どもを迎えに来るか、自治体からの避難に関する情報、近隣地域の被災状況、ライフラインの被災状況、避難所(母子避難所)の開設状況、平時から配慮を要する家庭やかかわりの気になる保護者の心理社会的状況がある。避難時に持出、共有する情報は、児童名簿、緊急連絡簿、アレルギー、障害、養育困難等の平時から配慮を要する家庭の情報がある。保護者等が必要としている情報としては、子どもの現在地、子どもの状況、近隣地域の被災状況、ライフラインの被災状況、避難所(母子避難所)の開設状況などがある。情報収集および発信の対象としては、保護者にとどまらず、自治体の担当者、保健師、社会福祉士、臨床心理士など連携が必要な多職種専門職におよぶ。

2. 想定される課題と対策

医療健康と避難生活上の課題に大別される。医療健康課題は、避難中の感染症発生、アレルギーや疾患対応に必要な食事や薬の入手困難、災害後に経験する不安や制限のある生活の中で主観的健康感が低下する、避難生活の長期化によりDVや虐待の危険性、発見の困難性が増大する懸念があり、専門職としての対応が必要である。避難生活上の課題では、避難時に家族と再会するまでの子どもの不安、子どもが日常生活を送る上での不安と混乱、経済的な問題等による家庭内の不安と緊張の高まり、子どもと保護者の関係性の質低下、避難生活の長期化による保護者の疲労等から子どもとのかかわりの質低下、引越等の環境変化にともなう生活の不安定化などがある。

3. 平時からの備え

保育教育実践の場では、毎月災害を想定した避難訓練等が行われている。災害時は、施設の専門職のみで子どもたちの安全な避難は困難と想定される。地域住民と協力し、平時から共に準備する連携が不可欠であり、自治体との連携も非常に重要である。避難時に子どもたちの不安を軽減するよう、子ども自身が避難経験や避難先のイメージを持つこと、一緒に避難する地域住民を見知っていることが重要である。また、専門職は日ごろから保護者の状況の把握が求められる。平時から災害時の連絡の取り方等を保護者と共有し、連絡と連携の手段を複数確保しておく。さらに、子どもと保護者の特性を理解し、子どもの成長発達や保護者の状況を平時から必要に応じて専門職チームと共有することが欠かせない。信頼関係の構築が、災害時と災害後の円滑な支援遂行に重要である。

【結論】

エンパワメント実現の具体的な要素を組み込み、専門職および一般向けのマニュアルを作成した。本マニュアルの普及と活用により、レジリエンス強化に向けた相乗的な効果の創出が期待される。